

# 令和3年度 南九州市男女共同参画審議会 議事録（公表用）

- 日 時 令和3年10月26日（火）13時30分～15時10分
- 場 所 知覧庁舎本館2階 委員会室
- 出席者 （委員） 大隣 初美 会長，平石 大 副会長  
（以下名簿順）蔵元 ゆり子，南部 貞子，外菌 順子，安山 久美子，  
刈川 澄秋，若松 一騎，富永 洋子  
（事務局）塗木 弘幸 市長，橋口 和久 まちづくり推進課長，  
坂口 耕作 共生・協働推進係長，  
郷 祐樹 主任主査，山内 康平 主事
- 欠席者 伊瀬知 幸亮 委員，橋口 健太 委員，松崎 瑞喜 委員

- 
- 1 開 会（13時30分） 会議の成立宣言
  - 2 市長あいさつ
  - 3 男女共同参画に関する学習（男女共同参画の現状について）
  - 4 審議会の役割説明及び令和2年度南九州市男女共同参画経過報告
  - 5 協議
    - (1) 南九州市男女共同参画基本計画二次評価について（令和2年度分）
    - (2) その他
  - 6 閉会

## 【3 男女共同参画に関する学習】

内閣府が発行している令和3年度男女共同参画白書について、「雇用情勢の悪化（就業者数の推移）」、「ひとり親世帯の窮状（完全失業率）」、「学校の休校等による影響（子どもがいる女性の就業率）」、「DV（配偶者暴力）相談件数の増加（全国の相談件数の推移）」、「女性の自殺者数の増加（自殺者数の推移）」などは本市の状況も把握しておく必要があるため、可能な限り本市も調査していただきたい。

## 【4 審議会の役割説明及び令和2年度南九州市男女共同参画経過報告】

コロナ禍により相談したいができない方が増える中、身近な相談窓口として相談窓口情報を周知し、声を聞きだす工夫をしてほしい。

また、社会福祉協議会や民生委員も身近な相談窓口として相談業務を行っていることから、今後も連携をとっていただくとともに、今後も活用していただくよう情報周知を行っていただきたい。

悩み相談室の周知について、若い年齢層の相談件数が少ないところであるが、SNS等の活用等、若い年齢層が相談しやすい啓発も検討していただきたい。

## 【5 協議(1)南九州市男女共同参画基本計画二次評価について（令和2年度分）】

### <多文化共生について>

(A委員) 「多文化共生について、何から取り組むことができるかを検討し、取組を進めていく。」とあるが、まだ具体的な取り組みはできていないのか。

(事務局) 現在9月から11月にかけて、国際交流事業ということで本市に在住する技能実習生と日本人を対象に講座を開催しており、当課の柱の事業である。南九州市には外国人が400名以上いる。この方々を対象に様々な事業に取り組めればと思っている。

多文化ということで、本市にもいろいろな国々から外国人が来ている。市からアクションを起こしても、言葉の壁に阻まれることがあるが、今後は色々取り組んでいければと思っている。

(A委員) その講座の募集について広報誌等に掲載して行っているのか。

(事務局) 今回の講座は南九州市国際交流協会という外郭団体が事業実施主体である。会員は約35名。その会員が自分たちで呼び掛けて外国人を募集したため、広報誌等に掲載はしていない。

現在その講座は6回中4回実施した。1・2回目は外国人が6名ずつ、3・4回目は外国人が10名ずつ参加した。

(A委員) 私の職場にも外国人が10名ほどいるが、声がかからなかったのではどのように募集をしたか疑問であった。

### <光回線の普及について>

(委員) 光回線だが、普及活動は大事だと思う。現在の普及率はどれくらいか。コロナ禍もあり、急いで普及しないといけないと思う。

(事務局) 今年度末で大部分が終了する予定である。

### <避難所運営について>

(A委員) 私の地区公民館は昨年度県の指定を受けて地区の防災計画を作成したところであるが、避難所の運営等に関して、ほとんど情報が入ってこないため、避難所をどう運営したらいいか分からない。防災安全課とまちづくり推進課はどのように市民に情報提供をするのか教えてほしい。

(事務局) 防災については防災安全課、避難所は福祉課が担当している。

市の避難所はあくまで初期避難と思っている。長期避難になった際に地区公民館はどのような役割を持つのか、という課題が出てくると思う。そういう際の訓練を防災安全課が今後やっていけたらと思う。

(B委員) 地区公民館長などにそういった研修が行き届いていないようである。防災は重要なことなので、強く働きかけて、研修を実施すること大切である。

(事務局) 常日頃、内閣府から男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営をお願いしますと連絡がある。防災安全課や福祉課にそういった情報を提供して

いるが、男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営には予算を伴うものがあり、なかなか難しいところがある。しかし、そう言っていては何も進まないのではまちづくり推進課は出前講座で避難所運営ゲーム (HUG) を行っている。過去には地区公民館や民生委員に対しても研修をした実績がある。

まだ出前講座でHUGを行っていることを知っている方が少ないので、今後さらに周知していく。

### <認知症関連事業について>

(A 委員) 認知症サポーター養成講座について、私は、南九州市の認知症関連の会合に8年間参加させていただいている。その中で見えてきたことは、行政だけでいくら頑張ってもなかなか裾野は広がっていかないということ。

認知症は誰もが発症する可能性があり、早急に解決しないといけないということで取り組んできたが、初めのうちは地域の方は自分事として捉えてくれなかった。そこで行政プラス民間企業など外部に協力をいただき、広報活動や研修を行った。そうすると地域のボランティアが増えてきた。しかし活動している割には市民に浸透していない。もっと地域を巻き込むにはどうするかが大事である。

(B 委員) 私の地区は高齢化地区であるが、市がそういった事業(認知症サポーター養成講座)を行っていることを知らない。高齢者学級や公民館で講座を開いてもいいと思う。情報発信をお願いしたい。

(C 委員) 私の地区はいきいき会やサロンをほとんどの自治会で行っている。現在はコロナ禍でほとんど開催できていないが、高齢者に声掛けに行くと早く開催してほしいと言われる。そういった声掛け等を行っているためスタッフみんなが「あの人は認知が入ってきた」などの情報を自然と持っている。

認知症のサポートは地域の繋がり、常日頃の付き合いが重要。私の自治会は自治会内で互いに知らない人はいないし情報共有もできている。このように重要な役目を果たしているサロンに助成がもっとあればいいと思う。

(事務局) 市は集落支援員を三名採用している。いまお話しされたように各地区色んな課題がみられる。今後人口減少していく中で、とても行政では支えられない。地域のことは地域でやっという事で取り組みを進めているところ。両地区公民館のように全20地区が取り組みを進めていければと思っている。

### <高齢者の避難について>

(A 委員) 相談者に対して、私は民生委員に相談をしてはどうですかと繋ぐのだが市民一人ひとりに対しては対応できない。相談事がある方に対して、もっと市報などでお知らせしてはどうか。

私が住んでいる地域は一人暮らしの高齢者が多い。災害時に避難所に行くとなった時に、声掛けをして車で一緒に避難する。その時に家に居たい

という方がいる。その方のご家族や誰に連絡していいか分からない。この場合どうすればいいのか。

(B委員) 民生委員の立場として今の質問に回答するが、民生委員は地震の場合は対応できない。台風や大雨は警戒レベル3までは対応するが、それ以上は対応できない。その場合は消防団員が対応するので、消防団員に依頼するように私はしている。

(A委員) そういったことを市報で教えてほしい。先ほど言ったようなことを私は個人で行っているが、どこに連絡していいか分からない。

(B委員) いま言ったが地震の場合は対応できない。大雨や台風の場合は予報が出ているので予想できる。その際、民生委員は一人暮らしの方に連絡を入れている。そして警戒レベル3以上になると自主防災組織が動き出す。

(C委員) 昨年防災計画を作成したのだが、作成の時にこの話が出てきた。誰がどのように動くかを計画に盛り込んだ。たまたま県の指定を受けたのでこういった計画作りができたが、防災訓練時には誰が動けないから誰が対応するというをやってきた。

(A委員) 被災したことがないので、漠然としか捉えられていない。実際に被災すると動揺して計画通り行動できないかもしれない。避難訓練で回数を重ねることが重要と思う。

(B委員) 自治会では年に1回防災訓練が行われている。自分の身を守るためにはそれに参加するべき。

(D委員) 防災訓練は有意義である。過去の訓練時、その家には小学6年生の女の子しかおらず、自治会放送で「訓練です」と言い忘れ、「津波が来ます。」と言ってしまった。その子は一人で避難場所まで避難してきた。訓練の大事さを実感した。

(E委員) 一人暮らしの方の緊急連絡先を民生委員は知っているが自治会長と連携を取っている。民生員がいないときは自治会長に連絡すればいいと思う。

(A委員) 以前、台風が過ぎた後に隣の家の方が一人で家に居た、ということを知った。民生委員は独居の方がいて、緊急時の連絡先はここ、というのを近所の人に教えてくれたら安心する。

(E委員) 心配ならどうなっているかを民生委員か自治会長に言うべき。個人レベルで一生懸命されているのは分かるが、地域の中には自治会長・民生委員がいて、自主防災組織もあるのでそこに聞いたらいいと思う。

### <児童へのワクチン接種の啓発>

(委員) 私は児童委員もしているのだが、コロナワクチンを接種する様子がメディアで月に何十回、何百回と放映されている。中学生以下はこれからワクチン接種で、中学生はまだしも、小学生はテレビでワクチン接種を見て、怖いと感じ予防接種に行きたくないという人が多い。子どもたちにワクチン接種は大切であるということを伝えてほしい。

(事務局) 今の意見については市から関係課に情報をつなぐ。